

発 刊 に よ せ て

正強学園理事長 大 浦 茂 雄

「センター年報」の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

奈良大学は、教学の理念のなかに、「国際的視野に立つ開かれた大学として地域社会との連帯を深めながら、ひろく人類社会の平和と発展に貢献する」ことを掲げ、多様化、情報化が、急激に進展しつつある今日の社会に、柔軟且つ適切に対応できる人材の育成、という広範な社会的要請に応えるため、昭和63年4月既設の文学部に加え社会学部を新設すると同時に、専門分野にとらわれることなく、情報化社会の一翼を担う、優秀な人材を育成する施設として情報処理センターを設置しました。

情報処理センターの中核は、ホストコンピューター（日本電気製、ACOS 430モデル70）であります。これは、文科系大学の設備としましては、立派で高性能のものであると自負しているところでありますが、コンピューターは、常に使用していなければ価値がありません。できれば性能100パーセントを使用しなければなりません。教員、事務職員、学生諸君、大学に関係する全ての人々の努力により、このコンピューターの性能の限界まで使いこなし、研究と教育に立派な成果をあげられ、これを大学共通の財産にさせていただきたいものと念じております。かかる意味において「センター年報」が果すべき役割は、極めて重要であろうかと存じます。

来たるべき高度情報化社会にそなえて、さらに建物、設備の拡充、充実を図って行く所存であります。また、情報処理センターが、本学の中核となって学術研究、教育に大いに成果をあげられ、「センター年報」が、質量ともに一層充実して行くことを祈念しまして挨拶と致します。

平成2年12月